

(蔡英文総統, 蕭董事長, )ご来賓, ご参加の皆様,

こんにちは(台湾語で「ダッゲーホー」, 中国語で「ターチャーハオ, 最後に「Good Afternoon」)。

今回, 私は, 日本最大の超党派国会議員連盟である「日華議員懇談会」会長として台湾を訪問しております。我々「日華議員懇談会」は, 明日行われる国慶双十節の祝賀パレードに初めて日本代表として参加します。我々は, 毎年, 式典に出席していますが, 今回は, これまで以上の積極的な参加ということで, パレードへの参加が実現いたしました。非常に楽しみです。

今回のパレードには, 我々と共に, 台北日本人学校の生徒も参加されます。また, 来年2020年夏に我が国で開催される東京オリンピック・パラリンピックのグッズを持って参加します。台湾の皆様のご来訪を心より歓迎し, お待ち申し上げております。

毎年このパレードには、様々な分野のプロフェッショナルの方々が参加されていて、工夫を凝らしているのを見えています。例えば、このパレードを、単なるパレードではなく、台湾らしく、最大限グローバルで平和な式典になることで、世界にも台湾の魅力をより強くアピールできると思っていますし、それを望んでいます。我々は、古き良き友人として、これからも国慶双十節を盛り上げていきたいと思っています。

本日のテーマは、「イノベーションと進歩のためのアジアの対話」、「アジアにおける進歩的パートナーシップの深化」ですが、本日はアジアにおける日台関係の深化についてお話ししたいと思います。

台湾は、我が国にとり、緊密な経済関係と人的往来を有する重要なパートナーです。また、「まさかの時の友」であり「真の友」でもあります。この場をお借りして、東日

本大震災を始めこれまでの我が国での自然災害に対する台湾の方々からの温かい御支援に感謝申し上げたいと思います。

この30年間で日台関係は飛躍的に進展しております。例えば、日台間の人的往来は4倍以上、貿易総額は約2.5倍増えています。特に、近年は、我が国高校の修学旅行先で台湾がトップになっており、若い世代の交流も益々活発になっています。また、現在、日台間には31の航空路線があり、一週間に636便の定期旅客便が往来しております。

昨年は台湾から約476万人が日本を訪問されております。来年は、我が国で東京オリンピック・パラリンピックを予定しておりますが、より多くの方々にお越しいただき、福島を始め被災地の人々を勇気づけていただけましたら、大変ありがたいと思います。我々としましても、昨年2月の台湾東部地震で被災した花蓮への観光促進はじめ、引

き続き、より多くの日本人が台湾を訪問するよう力の限り支援させていただきたいと思っております。

このように災害の多い日台双方は、減災・防災のためにお互い助け合い連携しており、今後とも、日本と台湾の災害対策分野での連携を進めてまいります。日進月歩で革新的なイノベーションが生まれている世界において、災害対策分野においても、スピード感や機動性をより重視しながら成果につなげる新しい仕組みづくりが重要と考えます。日本のベンチャー企業のジオ・サーチ社は、路面下の空洞陥没をマイクロ波による3次元診断技術によって発見し、未然の事故防止に貢献しています。昨年より、台湾各市で180kmにわたる調査を実施したところ300箇所を超える空洞を発見しました。このことは、台湾メディアで大きく報道され、話題となっていると伺っています。

2011年の東日本大震災から続く台湾への日本産食

品輸入規制は、日台間の「喉に刺さった骨」として残っております。台湾の皆様にも、我々が普段から口にしている安全、安心な日本産食品を是非とも味わっていただきたく、この問題の早期の解決を改めてお願いいたします。

日本と台湾は、民主、自由、平和といった基本的価値観を共有しております。法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序は、国際社会の安定と繁栄の礎であります。特に、インド太平洋を自由で開かれた「国際公共財」とすることにより、地域全体の平和と繁栄を確保していくことが重要です。こうした観点から、日本は、「自由で開かれたインド太平洋」を推進しております。台湾を始め多くのステークホルダーにも、この考え方に賛同いただけるものと信じております。

「玉山フォーラム」が目標に掲げている「アジアにおける次世代の社会的な連結の強化」や蔡英文総統が推進されている「新南向政策」は、正に「アジアにおける進歩

的パートナーシップの深化」に必要不可欠なものと考えます。

日本は台湾と第三国市場協力を進めようとしております。昨年6月、第1回日台第三国市場協力委員会が行われましたが、今後も、日台企業が第三国において協力関係を構築していくための環境づくりを含め、日台間の更なる経済貿易関係の拡大に尽力していきたいと思います。また、こうした取組が「アジアにおける進歩的パートナーシップの深化」につながっていくことを期待しております。

世界経済が不透明感を増している現在、CPTPP（環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定）は、単なる貿易の自由化だけにとどまることなく、広大なマーケットに、新しい時代の公正なルールを打ち立てる野心的な試みであります。台湾は、すでにAPECやWTOのメンバーとして国際社会において様々な貢献

をされてきています。我々は、台湾側のCPTPP参加への一貫した関心表明を歓迎しております。また、国際機関への台湾の参加については、我が国はこれまでも支持してまいりましたし、これからも支持していきたいと思っております。

2009年以降8年連続でWHO総会へオブザーバー参加をしてきた台湾は、2017年より参加ができません。人々の往来、国際化の進展、国境を超える感染症の脅威など地球規模の課題が増加している中、誰も望まない防疫の地理的空白を生じさせることは、あってはならない事態です。保健衛生分野の豊富な知見・経験を持つ台湾の参加を妨げるものに、同じ問題意識をお持ちである各国・地域は連携し、より一層強く行動にでるべきです。

我々は、台湾と外交関係を結ぶ国が相次いで台湾と断交し、中国との外交関係を結び始めている事態を危惧しています。台湾との歴史的な信頼関係を絶たせ、短期

的利益を優先させるための圧倒的な経済力を利用した圧力，非常識なロビー活動に対して，共通の価値観を持つ国々はどうするべきか，真剣に考える必要があります。

特に，安全保障の観点からも重要な地域である太平洋島嶼国のキリバスとソロモン諸島が最近相次いで断交したことに強い懸念をもっています。

日本は，3年に一度，太平洋島嶼国との間で太平洋・島サミットを開催し，太平洋島嶼国との間で定期的に意見交換を行っております。また，来年半ばには，フィジーにおいて，太平洋・島サミットの間閣僚会合を実施予定です。このような場も活用しつつ，強靱かつ持続可能な発展の基盤強化を含め，太平洋島嶼国の真の希望に応えるような支援についてもよく議論をしていければと考えています。

我々は，経済，安全保障を始めとする諸問題に対応するため，日米台の議員外交による新たな連携を模索し



ているところです。友好的な関係である国々との枠組みに影響を及ぼすと思われる難題に対して、日本と台湾が手を携えて立ち向かえることがあれば、私どもは最大限の努力を惜しみません。

本日は、この後、台北の建国高級中学を訪問し、台湾の生徒と交流を行う予定です。去年は、蔡総統の母校である「中山女子高校」を訪問し、日本語の授業を参観しました。このように、我々としては、今後とも、次世代の主役となる若者との交流も積極的に行い、教育・文化の分野での交流を進めていきたいと思えます。

以上の分野をはじめ、日台関係がアジアにおける次世代の社会的な連結に共に貢献し、他の国々の参考となることを心より願い、結びとさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。